

玉川上水・野の花だより No. 4 1

ミズヒキ *Persicaria filiformis* (タデ科)

東京大学名誉教授 中央大学研究開発機構・機構客員教授

石川 幹子 2026年 9月 23日

秋の気配が漂う頃、風に揺れ、朱色の鳥居の色に似たミズヒキが、草むらから姿をあらわしました（写真1）。茎の先端から、細長い花序が伸び、小さな朱色の穂状の花をまばらにつけています。小さいながら、それぞれの花の尊厳を護り、一定の距離をおいて花をつける様は、ミズヒキという名にふさわしい慎ましい姿です。

花は2～3mmで、花弁はありませんが、鮮やかな朱色の花の細長く伸びた姿が、ご祝儀袋の「水引」に似ているため、この名前がつけられたと、いわれています。稲荷橋から第二号橋の右岸には、腰をかがめて歩かなければならないほどのソメイヨシノの老木がありますが、この樹の下は、現在、ミズヒキの饗宴となっています。



写真1 ミズヒキ 大山緑道 9月20日

老木を寿ぐように、おそらく長い間、寄り添いながら季節を迎えてきたのでしょう（写真2）。ミズヒキには白花もありギンミズヒキと呼ばれ、紅白がまじったものを、ゴショミズヒキといいます。祝祭と結びついて、古くから日本人に愛されてきた野の花です。



写真2 ミズヒキ 稲荷橋～第二号橋（右岸）2026年9月22日